

親切運動の取組について

学校名 滑川市立早月中学校

生徒数 315名

1 親切運動の取組の紹介

〈特別老人保健施設の訪問〉

生徒会執行部やJRC委員会が中心となって2回の特別老人保健施設訪問の企画・運営をした。納涼祭や運動会では、利用者さんとの交流を通して相手の立場にたった温かい声かけや立ち振る舞いができた。また、滑川市の伝統である新川古代神の踊りを披露したり、職員の方と共にサポートをし、行事を盛り上げることができた。活動を通し、ボランティア活動に興味をもつきっかけとなり、意義ある活動となった。



〈資源回収〉

春と秋の年2回、生徒と地域の方が協力して、地域の家庭から出た新聞紙や雑誌、缶、瓶等を回収し分別をした。活動を通して、資源の大切さを生徒一人一人が学ぶことができたり、地域の方と共に活動することで、社会の一員として地域を考えたりするよい機会となった。



〈プチボラ〉

生徒会執行部が企画し、月1回の朝のボランティア活動を行っている。ふれあいホールのごみ拾いやグラウンドの草むしり、生徒玄関等、学校の様々な場所の清掃活動を行った。一人一人が積極的に参加し、ふだん何気なく使っている活動場所に感謝をしながら取り組んでいる姿がみられた。



2 親切運動に取り組んで

・取組の成果

生徒主体の自主活動が定着し、その活動が伝統となって毎年受け継がれてきている。生徒会執行部が中心となって行事と関連させながら活動場所を提案し、前向きに活動できるように工夫している。中でも年2回実施している資源回収は、地域の方と協力しながら行っているため、生徒が社会の一員であることを自覚するきっかけにもなった。今後もこれらの活動を継続することで、学校や地域に貢献する姿勢を継承していきたい。

・課題と今後に向けて

ボランティア活動の趣旨を全校生徒に伝え、意識を高くもてるような工夫をしていく必要がある。また、生徒が主体的に活動でき、継続的に活動できる工夫をしていきたい。